

令和 4 年 5 月 29 日現在

機関番号：34315

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2021

課題番号：20K20137

研究課題名（和文）欧州のライブ・ビューイングに関する需要研究

研究課題名（英文）A study of audience experience of live-viewings

研究代表者

立石 祥子（Tateishi, Shoko）

立命館大学・衣笠総合研究機構・プロジェクト研究員

研究者番号：40747656

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、参加者の体験に焦点を当てながら巨大イベントについて考察する。とりわけ、日本においては若者文化の一端として注目されてきたライブ・ビューイングについて、スクリーンに媒介された映像イベントの役割を検討する。パブリック・ビューイングに参加する若者への批判を再検討しつつ、参加者たちの実践として、一時的な出来事への関与の方法である「にわか」性を評価した。

研究成果の学術的意義や社会的意義  
ナショナリズム論と親和性の強いメディア・イベント研究は、方法論として歴史研究に傾倒しているという特徴がある。そのため、巨大イベントを研究対象とする先行研究は、史料としての新聞等（＝送り手）の役割を問わざるを得なかった。このように送り手側の暴力的な権力性を暴いてきた20世紀のメディア・イベント研究に対し、本研究は参加者へのアプローチから、マス・オーディエンスによる巨大イベントの体験に着目する。21世紀以降、メディア環境の変化と一時的な集合行為が日常化した現代のイベントをめぐって、オーディエンスの側からその役割を検討する点に本研究の意義がある。

研究成果の概要（英文）：This study considers mass events focused on audience experience. In particular, this study deals with a role of live-viewing as screen-mediated visual events which has attracted attention in Japan as a part of youth culture.

研究分野：メディア論

キーワード：メディア・イベント パブリック・ビューイング オーディエンス

## 1. 研究開始当初の背景

筆者はこれまで、W杯や五輪等、放送技術に媒介される非日常的かつ国家的なスポーツ・イベントと、これに際して行われる「パブリック・ビューイング (public viewing)」を中心としたさまざまな映像イベントを研究対象としてきた。大規模なイベントを捉えるための枠組みとしては、「メディア・イベント」研究 (D. Dayan, E. Katz Media Events, 1992 等) があり、新聞やテレビといったマスメディアがイベントの送り手となることを前提としてきた。特に 20 世紀のイベント研究は、送り手側の暴力的な権力性を暴いてきたといえる。

これに対し、筆者は、一時的に見知らぬ人々とともに一つのスクリーンを共有する参加者の体験に注目した。現在、映像イベントは日常の中に溶け込み、透明化している。メディア環境の変化と一時的な集合行為の日常化の進んだ 2010 年代のメディア・イベント研究として、本研究は公共空間における日常的な映像視聴イベントを総称した「ライブ・ビューイング (Live Viewing)」に着目する。

加えて、研究開始当初の状況として、本研究では、2020 年に開催されるとされていたユーロカップに関する映像イベントを調査する予定であった。さらに、2020 年には日本で東京オリンピックに際してパブリック・ビューイングも予定されており、公共空間におけるスクリーンに媒介された一時的な出来事が、各地で観察されることが期待された。

## 2. 研究の目的

本研究は、参加者の体験に焦点を当てながら巨大イベントおよびそれに関連して開催される映像視聴について考察する。とりわけ、日本においては若者文化の一端として注目されてきたライブ・ビューイングについて、スクリーンに媒介された映像イベントの役割を検討する。

## 3. 研究の方法

### 【オーディエンスの体験の検討】

流動的な社会においては、ある集合行為の参加者が特定の目的意識を持った集団であることを自明の前提とした分析に限界がある。既に映像体験を共有することによってファンが再生産される様子を論じる向きはあるが (Leimig R., Fußballfan Frau!, 2006) その規模が大きくなるにつれて、特定の趣味が共有されているとはいいがたくなる。言い換えれば、映像メディアに媒介された集団の雑種性や複数性こそを問題にしなければならない。

本研究ではフィールドワークおよび参加者からの聞き取りをおこなう予定であったが、イベントそのものが中止されたことから、これまでにおこなってきた聞き取り調査のデータおよび参加者に関する報道・言説を再調査し、個々の体験および参加者に関する言説とのギャップを検討した。

### 【一時的な出来事をめぐる理論の検討】

かつてスペクタクルのイベント研究は、「創られた伝統」(E. Hobsbawm & T. Ranger eds, *The Invention of Tradition*, 1983) や「柔らかなファシズム」(V. Grazia, *The Culture of Consent*, 1981) と結びつき、国家的な動員を目的とした産業的基盤の形成過程や戦争宣伝事業との関係に知見が蓄積されてきた。こうしたイベントが、国家規模から地域密着へと変化し、日常化した現在では、参加者に地域や国家の歴史といった社会的アイデンティティを喚起させる仕掛けの目的は多様化している。

筆者は中でもドイツにおける想起とアイデンティティに関する研究 (香川檀『想起のかたち 記憶アートの歴史意識』水声社, 2012 など) で言及される、一時的な出来事としての「対抗記念碑」(James E. Young, *The Texture of Memory*, 1993) とメディア・イベント研究との接続を試みた。

## 4. 研究成果

### 【オーディエンスの体験の検討】

本研究では欧州地域においてフィールドワークをおこなう予定であった。しかしコロナ禍において渡航が困難になり、同時に様々な巨大イベントおよびライブ・ビューイングが延期・中止となったことから、文研調査を中心としつつ、ドイツと比較する形で、日本における一時的な巨大イベントに関する研究をおこなった。

本研究では、これまでのパブリック・ビューイングに参加する若者への批判を再検討しつつ、参加者たちの実践として、一時的な出来事への関与の方法である にわか 性に注目した。その上で、アーレントを援用した齋藤純一 (『公共性』岩波書店, 2000) の「表象の空間」を参照し、人々が肩書や立場といった表象の支配を受けない にわか が当たり前にいる空間こそ、多様な人びとが多義的に帰属する受け皿となる公共空間を実現する可能性について言及した。

この研究の成果は、書籍に分担執筆として掲載予定のほか、日本メディア学会に関連して発表の場を企画中である。

### 【一時的な出来事をめぐる理論の検討】

また、こうした公共空間における一時的な出来事の理論的側面を考察するにあたり、「記念碑（公開遺産）」とメディア・イベント研究との接続として、万国博覧会における建造物の仮設性と恒久性について検討した。

万博のために用意されるパヴィリオンなど様々な施設は、期間限定でそこに存在するものとして建造される。ところが、これが覆されて、恒久的に保存され、従来型の記念碑　それも強烈に国家意識の想起を命じる権威的な記憶装置としての　国民的記念碑（George L. Mosse, *The Nationalization of the Masses*, 1975）　の列に加わるようになってしまう場合がある。他方で、こうした権威的な記念碑に対するオルタナティブとして、権威的で恒久的な記念碑に疑問を投げかけ、一時的な体験と記憶を結びつける記念碑群「対抗記念碑」がホロコースト記念碑論争に際して再注目されてきた経緯がある。万博を記念碑というメディアとみなすことで、批判的な力を持つ仮設性と、権威的な力を持つ恒久性との間に起こっている出来事として捉え直すことができる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

・立石祥子（単独、招聘あり、2020年8月23日）「メディア研究から見る記念碑 イベントの仮設性と恒久化をめぐって」『万国博覧会に見る「日本」 芸術・メディアの視点による国際比較』（オンライン開催）  
 ・立石祥子（単著、寄稿、2022年3月）「メディア研究から見る記念碑 イベントの仮設性と恒久化をめぐって」『万国博覧会に見る「日本」 芸術・メディアの視点による国際比較」中間報告、55～57頁。

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------